郷土ちがさき

第 141 号
発 行　平成30年1月1日
発行者　茅ヶ崎郷土会
会 長　平野文明
編集責任　平野文明

新年のごあいさつ　平野文明……1
私の故郷・東京（江戸）の名数　源　邦章……2
会報『郷土ちがさき』の出発点　平野文明……4
史跡めぐり報告　山本俊雄……14
風　自由投稿欄　湘南のコケコッコー　中島幸子……17
茅ヶ崎郷土会の活動報告……18

茅ヶ崎海岸に今日も朝日が昇る

平成は三十年　郷土会は六十年

新年のごあいさつ

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

茅ヶ崎郷土会は、生まれてから六十年ほどになりました。昨年もたくさんの事業を行いましたが、ご参加いただきました皆様のご感想はいかがでしたでしょうか。

史跡巡り、大岡越前祭・市民文化祭の写真展、『郷土ちがさき』の発行、月々の歴史・民俗勉強会、郷土芸能大会支援などはもう数十年も続く事業です。加えて昨年から新たに「茅ヶ崎二十三カ村調査」を始めました。市内の江戸時代の各村の歴史と民俗を調べようという、いささか大風呂敷の感を感じないわけでもない計画ではありますが。

そんなこんなでありましても、太陽は毎日欠かさずのぼることを見習って、私たちも一つ一つ実行しようと思います。

会員各位のご協力と関係各位のご支援をお願いいたします。

平成三十年元旦　茅ヶ崎郷土会会長　平野文明

私の故郷・東京（江戸）の名数一、二、三、・・・九

源　邦章

私は東京の世田谷で生まれ、二十七歳まで東京に住んでいました。私の故郷は当然ながら東京です。東京人には故郷が無いと言われていましたが、私は学生の頃から東京二十三区を中心に名所旧跡巡り、特に寺社巡りに没頭していました。今でも鮮明に思い出しますが、目黒不動に行った時でした。学生の頃です。目黒不動で参拝を済ませパンフレットを貰った時、目黒不動の他に目白、目赤、目青、目黄の各不動尊が有ることが分りました。衝撃的でした。目白不動はＪＲ目白駅があるので、うすうす場所は特定できましたが、目赤・目青・目黄の各不動尊は何処にあるのだろうと興味津々でした。早速パンフレットに書いてある住所を頼りに全て即日巡りました。満足でした。これは「江戸五色不動」というのだそうです。その後「江戸六地蔵」「江戸七福神巡り」など数字でまとめた名所旧跡などが多々あることに興味を持ち、江戸（東京）の名所旧跡の名数一から九まであるかどうか調べて見ました。

一は江戸のランドマーク「江戸城」に尽きます。現代では東京タワー或は東京スカイツリーでしょうが、江戸時代の史跡を基本としていますので、江戸城を挙げました。松の廊下や桜田門などがありますが、やはり江戸城と言えば天守閣でしょう。天守閣は家康（慶長度・一六〇七）・秀忠（天和度・一六二三）・家光（寛永度・一六三八）と三回建てられましたが、明暦の大火（一六五七）で焼失してしまいました。勿論再建の要請はありましたが、時の将軍の補佐役保科正之（家光の腹違いの弟）が天守閣の再建よりも江戸の街の復興を優先すべしという事で、それ以来天守閣はありません。

二は「南北両町奉行所」です。北町奉行所は東京駅の北側、南町奉行所は有楽町駅のど真ん中にありました。南北町奉行所とはいっても地域を分割していたのではなく、月番制でした。一月を北町奉行所が担当すると、二月は南町奉行所が担当、担当月は事件の受付・捜査などを行ない、担当していない月は捜査・判決まで行うという月番制でした。奉行としての有名人は茅ヶ崎ではおなじみの大岡忠相が南町奉行、遠山の金さんは南北両町奉行に就いています。

三は「江戸三大祭り」です。「三大祭り」とは赤坂山王祭りと神田明神祭りは江戸時代を通じて数えられていました。あと一つはほぼ浅草三社祭りが有力ですが、ときには現在宮司殺人事件で注目を集めています富岡八幡宮の深川祭りが入ることもあるようです。

四は「江戸四宿」です。五街道のそれぞれの最初の宿場が「江戸四宿」です。東海道は品川宿、甲州街道は内藤新宿、中山道は板橋宿、奥州街道・日光街道は千住宿があります。まだ江戸のご府内なので、時代が下がるにつれてどの宿場も江戸市民の物見遊山の場所となり、飯盛女即ち遊女がおり、その死後は投げ込み寺に葬られました。その投げ込み寺を巡るのも面白い。

五は前述しました「江戸五色不動」です。目黒の目黒不動、目白の目白不動、文京区本駒込の目赤不動、世田谷区太子堂の目青不動そして目黄不動は二か所あります。台東区三ノ輪と江戸川区平井です。この「江戸五色不動」は寛永寺を開きました天海僧正の進言で、三代将軍徳川家光が江戸城の守護として各所に配したとのことです。当初は目黒・目白・目赤の三不動詣がさかんでしたが、江戸時代末になって目青と目黄が加わり「五色不動」となったようです。

六は「江戸六地蔵」です。十八世紀の初めごろに江戸深川に住んでいました地蔵坊正元が発願し、庶民からの寄進によって造立されました。これも「江戸五色不動」と同じく主要街道に沿って造立されています。東海道は品川の品川寺、甲州街道は新宿太宗寺、中山道は巣鴨の真性寺、奥州街道は東浅草東禅寺、水戸街道は江東区白河の霊厳寺、そして千葉街道は江東区富岡の旧永代寺ですが現在廃寺となっており、その代仏として谷中の浄明院が指定されています。

七は「七福神」です。私が東京の「七福神巡り」をした時（昭和四十年前後から）は都内には十六の「七福神」霊場がありました。主要な霊場は、最初に「七福神」に出会った品川の東海七福神、職場が近かった深川七福神、浅草の浅草名所（などころ）八福神、墨田区隅田川沿いの向島七福神、などの霊場がありました。これらは江戸時代からのものもありますが、戦後の高度成長時代を経て庶民の旅行が盛んになるにつれて整備して行ったものです。都内で一番古い霊場は台東区上野の谷中七福神です。

八は「江戸八社福参り」の八社です。これはかなりローカル色の強いもので、浅草から人形町の狭い範囲の八社巡りです。今戸神社、鷲神社（酉の市で有名）、小野照崎神社、下谷神社、第六天榊神社、水天宮（安産の神様）、小網神社、住吉神社の八社が参加しています。

九は「九品仏」です。東急大井町線九品仏駅近くの九品仏浄真寺にある九体の阿弥陀如来坐像を「九品仏」と言います。この阿弥陀如来の手の印相が上品上生から下品下生までの九種の印相を持っています。この浄真寺の地はもと世田谷吉良氏系の奥沢城があった所と伝えられています。ここでは四年に一度奈良の当麻寺と同じような「お面かぶり」の行事が行われています。

以上のように江戸の名所、名数一から九まで記してみました。これはあくまでも私が学生時代から今日まで歩いて探した結果です。まだいろいろな名数に関する名所旧跡が沢山

あると思います。是非教えて頂きたいと思います。最初に記しましたように、東京人には故郷が無いと言われましたが、私には故郷と呼ばれるものは充分あると思っております。

会報『郷土ちがさき』の出発点　―斎藤昌三翁の功績―

平野文明

一

茅ヶ崎郷土会は、昭和三二年（一九五七）から同三六年（一九六一）にかけて、『郷土茅ヶ崎』と銘打った雑誌を一一集発行している。その内、一から六集には「研究資料第一集」～「同第六集」と、七～一一集には「改巻第一号」～「同四号」と副題を付し、この四号には「改巻第四巻別冊」（奥付を欠く。発行日不明）が付いている。なお、刊行は、最初に二集を昭和三二年四月、一集を同年六月に、一〇冊目の改巻四号は昭和三六年九月である。

この『郷土茅ヶ崎』は現在の茅ヶ崎郷土会の会報誌『郷土ちがさき』の前身になるものと思われる。しかし一般に見ることができるような形では茅ヶ崎市立図書館に全冊が揃っているほか、会員であっても所有している人は少ないのではないだろうか。最近、大雑把にではあるが全冊に目を通したので、各冊の目次を抜き出すことによって紹介し、気付いたことのいくつかを述べておきたいと思う。

それらをここに記すにあたって次のように構成した。まず書名をゴシック体で表した。次に、発行年月日、発行所、印刷所を各集の巻末にある奥付から写し、印刷方法も記した。

次に各集の巻頭にある目次を、執筆者名がある場合はともに記した。さらに、目次の末尾に数字を振り、簡単な注釈と気づいたことなどを別記した。また、目次に筆者名がなくても掲載稿に書かれている場合はそれを記し、書かれていない場合でも、作者が想定できるものは記してみた。「斎藤」は「斉藤」とも印刷されているが本文では「斎藤」に統一した。なお（ママ）を付し、印字が読めない場合は「□」で表した。

二

郷土茅ヶ崎―研究資料―第一集

昭和三二年六月一〇日発行　発行所茅ヶ崎市役所社会教育課内／茅ヶ崎郷土会　手書き文字の謄写版印刷①

目次

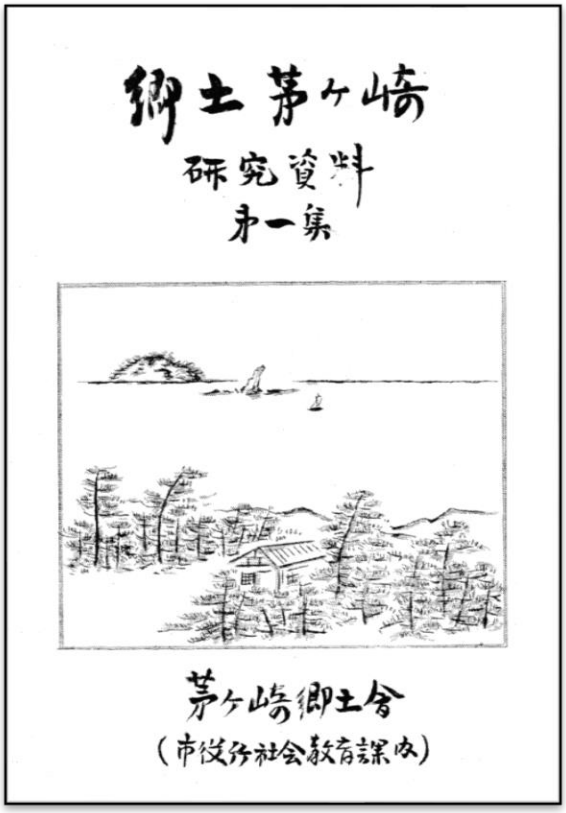
総記　新編相模風土記抄②

大日本地名辞典抄③

史料　小和田の昔と今④
　　竜（ママ）前院の銅鐘⑤
伝説　曾我兄弟の失敗⑥
考古　アイヌ語から見た郷土⑦
文献　源義朝の乱暴⑧
　　源平盛衰記抄⑨
　　平家物語抄⑩
紀行　筑紫紀行図誌　其他⑪
雑録　（七件）および郷土会会則

①奥付による。第二集以下同じ。
②『新編相模国風土記稿』茅ヶ崎市内の村々の記事を新漢字、かな文字を使い読みやすくしてある。しかしなぜか赤羽根村の項がない。
③和名抄にある高座郡内の地名解説を何からか引用してある。引用元は不明。
④掲載稿末尾に「ふるさとのしおり―小和田青年会」とある。
⑤掲載稿末尾に「昭和二三年四月　鶴田栄太郎」とある。
⑥掲載稿題「曾我兄弟茅ヶ崎では失敗」、末尾に斎藤昌三とある。
⑦掲載稿の題は「アイヌ語から見た茅ヶ崎」。「鶴嶺と砥上ヶ原」「八松原」の二つを納める。前者末尾に「昭和一五年一〇月　明朗茅ヶ崎二八号　九尾庵」、後者末尾に「昭和一五年一一月　九尾庵」とある。
⑧掲載稿の副題に「天養記の一節」、末尾に『昭和六年十月、三上左明が調査した「大庭御厨の研究」中、わが茅ヶ崎関係の一節を抜□したもの。小雨叟（ママ）抄録』とある。
⑨掲載稿は「大沼三浦に遇う事（源平盛衰記□巻第二十一）」と、「東国兵馬汰へ（ママ）並佐々木生嗟を賜はる附象王太子の事」と題した二編。
⑩掲載稿の題は「海道下り（平家物語巻第十）」とある。
⑪掲載稿の題は「紀行に現れた郷土」。「筑紫紀行図録」「東国名勝志」「東海道名所図会」を引用元として、茅ヶ崎に関する部分を抜いたもの。執筆者名がないが、⑨⑩とも斎藤昌三と思われる。

◎「茅ヶ崎郷土会々則」「小出中学校校歌」「小出小学校校歌」を載せる。「後記」中に、二集が一集より先に発刊されたこと、「御寄稿は市役所内本会宛、又はもよりの鶴田栄太郎　石田文吉　藤間善一郎　三沢善右ヱ門　塩川健寿　斎藤小雨荘（ママ）におねがいします」とある。



郷土茅ヶ崎―研究資料―第二集

昭和三二年四月一五日発行　発行所茅ヶ崎市役所内／茅ヶ崎郷土会　手書き文字の謄写版印刷

もくろく（ママ）

発刊の言葉①

（史料）

茅ヶ崎の史的概観②

宝生寺善光寺式阿弥陀三尊③

小和田の上生寺沿革④

竜前院の五輪塔⑤

鶴嶺八幡宮⑥

景能館址⑦

八松ヶ原⑧

越前守菩提所と領所⑨

一里塚⑩

相模川橋脚⑪

（口碑）南湖力丸の存否⑫

（迷信）郷土の迷信⑬

（雑録）茅ヶ崎の昔（和歌）⑭、疑問の地名⑮、茅ヶ崎の交流人物⑯、名所茅ヶ崎（新民謡）⑰五十三次道中詩選

後記⑱

茅ヶ崎小学校校歌⑲

①「発刊の言葉」に次のように記されている。「歴史は終結した過去のものである以上、事実をそのまま記録すれば目的は達せられるのだが、完成を期しても資料や文献が揃わぬことには手がつけられない。鶴田君が専念、この茅ヶ崎郷土史の完成を期して、幾年月を重ねているのもその完璧を希うからである。然し、如何に過去の歴史でも、わが茅ヶ崎の如きは殆ど資材を欠いているので、その完成を期待することは至難である。其処に君の苦心も推察出来ぬことはないが、去りとて徒に日を重ねていたら、お互の生命には限度がある。不備は不備として、その正鵠は後人に一任すればよい。その意味で兎に角得られた資料を漸次発表し、広く識者の検討を乞い、その結果を将来の茅ヶ崎市史に提供しようと衆議一決、ここに本叢書の発足の機運となった。」筆者名は無いが斎藤昌三と思われる。発刊の趣旨が「将来の茅ヶ崎市史編纂のために資料集を刊行する」と述べられている。また、鶴田栄太郎も同様の活動を行っているとあるが、斎藤、鶴田両人の取り組み方の違いも伺うことができる。

②掲載稿末尾に「昭和一六・八相武研究　相模茅ヶ崎史観　石野瑛」とある。

③掲載稿末尾に「昭和一六・八相武研究　相模茅ヶ崎史観　木島淡哉」とある。

④掲載稿末尾に「昭和一六・三・一六茅ヶ崎小学校講演大要　木島鄰」とある。

⑤掲載稿末尾に「跡部直治」とある。

⑥⑦⑧掲載稿末尾に「昭二三・四茅ヶ崎の面影　鶴田栄太郎」とある。

⑨掲載稿末尾に「昭和四・五大岡越前守　沼田頼輔」とある。

⑩⑪掲載稿末尾に「茅ヶ崎小　学校経営」とある。

⑫掲載稿の題は「疑問の人　南湖力丸」、末尾に「斎藤昌三」とある。
⑬掲載稿末尾に「茅ヶ崎小　学校経営」とある。
⑭掲載されていない。⑮掲載稿に「小雨叟」とある。⑯歴史上の人物も含め三二人が列記してある。⑰掲載稿に「佐藤萬吉作」とある。
⑱「〇三月六日市役所階上での郷土会で、兎に角在る資料から漸次会報を出してゆこうと決定したので、取敢へず第二集を御覧の通り発行した。追っかけ第一集は総記として、五月中には、お目にかけられるし、第三集は目下編集中というところまで進んだ。〇近い将来市史にまで発展させたいと念願しているものだ。今後の大体の方針は次の予定である。第一部総記、第二部史料、第三部伝説・口碑・考古、第四部地名・方言・迷信・民謡・紀行・文芸・文献・雑録、第五部年表（鎌倉期―昭和三十年）。〇原稿用紙は市から小雨叟の方へ届けられてあるから、どしどし御利用願いたい。〇本誌は広く御検討願いたいので、御希望のモヨリの会員、若しくは三沢、鶴田、跡部、藤間へ御申越し下さい。実費でお頒ちいたします。編集当番」とある。文中の「編集当番」は斎藤昌三と思われる。
⑲裏表紙に奥付とともに掲載されている。

郷土茅ヶ崎―研究資料―第三集

昭和三二年一〇月一日発行　茅ヶ崎市役所内茅ヶ崎郷土会
スエカネ孔版　和文タイプライターの謄写版印刷

目次

交通　歴代駅長史一　岱仙洞①
考古　小出の堤貝塚　赤星直忠
史料　郷土の史跡一　山口金次②
教育　学校沿革史一　重田景次
人物　農地解放の悲劇　斎藤昌三③
地理　砂丘　鶴田栄太郎
文献　東海道ゑきろのすゞ④
雑録　「はえと蚊」に就いて⑤
「伝説河童徳利」の巻　鶴嶺小学校⑥

後記⑦
①載稿執筆者名に「重田岱仙洞」とある。
②掲載稿題には「墓碑と金石文一」が付く。文末尾に「山口金次調査」、『昭和二八年八月以降の「茅ヶ崎タイムス」に掲載したもの…』（小雨生：ママ）とある。
③掲載稿副題に「佐々木卯之助の事蹟」とある。
④江戸時代の紀行文「東海道ゑきろの鈴」からの引用。執筆は斎藤昌三と思われる。
⑤掲載稿の題は「名物　はえと蚊」。筆者名は「編集子」とあるが斎藤昌三と思われる。
⑥掲載稿の題には「郷土紙芝居」が付く。また「鶴嶺小学校作」と、末尾に「解説、前校長佐藤萬吉氏」とある。
⑦筆者名に「編集当番」とあるが斎藤昌三の編集と思われる。
◎目次にないが、巻末に「茅ヶ崎の交流人物」があり、二〇人の氏名が列記してある。また裏表紙に松林小・中学校の校歌が掲載されている。

郷土茅ヶ崎―研究資料―第四集

昭和三二年一二月一五日発行　発行所茅ヶ崎市役所内茅ヶ崎郷土会　印刷所スエカネ孔版　裏表紙を除き和文タイプライターの謄写版印刷

目次

史料　藤間家古文書抄一①
香川の史跡（一～五）吾妻書院②
鰐口　多宝塔　鶴田栄太郎
宗教　柳島弁財天由来　伝書
人物　若松先生責任の割腹　小雨叟
雑考　義人佐々木氏遠島以後　岱仙洞
西光寺六百五十年③
とげなしバラ　青木　清
山僧のコレクション　庄司隆玄
泉観音の勧請④　葭田友市

後記⑤

①柳島の藤間家所蔵近世文書を活字化したもの。斎藤昌三の作業と思われる。

②「吾妻書院」とは編者斎藤昌三ではなかろうか。掲載稿末尾に「以上の骨子は主に熊沢及び新倉氏の調査」とある。

③昭和三二年一〇月五日に行われた十夜行事にちなんで書かれた文章だが執筆者名がない。おそらく斎藤昌三と思われる。

④掲載稿の題は「泉観音縁起」。

⑤「編集当番」とあるが斎藤昌三の編集と思われる。

◎裏表紙に鶴嶺小・中学校の校歌が掲載されている。

郷土茅ヶ崎―研究資料―第五集

昭和三三年六月二〇日発行　発行所茅ヶ崎市役所内茅ヶ崎郷土会　印刷所スエカネ孔版　手書き文字の謄写版印刷

目次

郷土史年表（未定稿）①
馬入渡船令達古状、砂場境界再認の連判状、須賀・柳島濱堺取換証②
懐島山龍前院開基山岡家に就いて　山口金次
円蔵寺三十代系図写③
民謡について　塩川健寿
義人三橋勘十郎（ママ）に就いて　石川安次郎④
名僧願行上人筆不動画像　庄司隆玄報
七堂伽藍碑建立記　塩川健寿
第四集正誤表
編集後記⑤

①明治からの事項が圧倒的に多いが、巻頭に、鎌倉期から昭和三二年までを記録したとあるように、各時代を通して作られた茅ヶ崎関係の年表で、このような形にまとめられた年表としてはおそらく最初のものであろう。

②三件の近世文書を活字化したもの。第四集に掲載の「藤間家古文書一」に続くものとして、斎藤昌三の労作であろう。

③掲載稿に「庄司隆玄報」とある。

④掲載稿末尾に「熊沢一奇記」とあるが、目次にある「石川安次郎」との関係は不明。

⑤文中に「編集当番は五号交代といふ（ママ）話だったので、第六号以下は新手が当番に当たると思う」とある。こ

の号も斎藤昌三の編集になると思われる。また、「鶴田君も単独に郷土誌を刊行との、折角（ママ）発展を祈る。」とある。

◎裏表紙に西浜中学校校歌が掲載されている。

郷土茅ヶ崎―研究資料―第六集

昭和三三年一一月二五日発行　通刊第六集　発行所茅ヶ崎市役所内茅ヶ崎郷土会　印刷所スエカネ孔版　手書き文字の謄写版印刷

目次

史料　地誌御調ニ付書上（藤間古文書）①
　解説　三浦俊明②
　熊沢一族は武田信玄の子孫（熊沢資料）
　大岡家の墓碑と過去帳　山口金次
　小笠原東陽先生の　譜（ママ）　塩川健寿③
文献　郷土民謡集　程島聴笙子
　佐々木卯之助の墓碑　小雨叟
雑録　郷土地名新解　奥九尾庵
編集後記　当番生④

② ①の文政七年（一八二四）の柳島村明細帳についての解説。原本は藤間家収蔵であろう。掲載稿の題は『右、柳島村地誌建上（ママ「建」は「書」の誤植）』解説三浦俊明とある。

③掲載稿の題は「小笠原東陽先生の年譜」となっている。

④「九月一日青ヶ島の佐々木卯之助墓碑写真到着」「砥上ヶ原の碑、建設は市長の手で進行中」「十一月三日市内の各所で市主催の文化祭挙行」などと書かれている。前五号編集後記で六号からは編集者が変わるとあったが、引き受け手が居なかったのか、斎藤昌三が担当した模様である。裏表紙に茅ヶ崎高等学校と松浪小学校の校歌が掲載されている。

郷土茅ヶ崎―改巻第一号―

昭和三四年八月発行　発行所茅ヶ崎市社会教育課（内）　茅ヶ崎郷土会　手書き文字の謄写版印刷

目次

はぎその史話　鈴木松風郎①
小出村の沿革　塩川健寿
旧家菊地家の祖先　山口金次
茅ヶ崎と国木田独歩　斎藤昌三
中世に於ける火葬墳墓　北野義夫②
小和田の旧記　相州高座郡小和田村明細帳　三浦俊明③
大山不動信仰の御利益④
郷土民謡（柳島）⑤
編集を了えて⑥

① 掲載稿の題は「伝説／史話　はぎその」、内容は萩曽根の始、萩曽根屋敷、遠山屋敷、遠山家過去帳抄、馬場山、古義真言宗満福寺、十二天社、十二神将表、観音堂、十王堂、本地堂、日蓮宗常顕寺、甲子権現堂、三島大神元満福寺、かながき魯文など。

②堤、円蔵、浜之郷出土の蔵骨器四件を報告する。円蔵の例は今も輪光寺に保存されている。

③寛政十年（一七九八）の村明細帳全文を活字化してある。

④「大山不動霊験記」から二話を活字化したもの。前書きに「全十五冊中から茅ヶ崎の郷土人に関するもの二件を、藤

間君が偶々発見したので左に収録した」とある。執筆者名がないが、斎藤昌三と思われる。

⑤エンコロ節の歌詞の紹介。

⑥「本誌は第六冊を以て一応第一期を終わったが各地の誌料（ママ）は漸くこれからという時、是非続刊をと希望さる一面、折角配付を受けても義理で購読するという向きもあり、同人としてもいささか迷わざるを得なかったが、市史の方針も未定の際、多少の欠損は見越して出そうという衆議一決、ここに改巻第一号として再出発することとした。（略）」とある。また図書館内の陳列ケースのことや次のような文章が並んでいる。『国木田独歩は（ママ）終焉の地に、是非「独歩公園」を創りたいと念願するものだが、これも理解が六ッかしい』、『秋の読書週間までに「市民の著書を拾う」を完成して一場に展陳し、市の誇りと文化を展示したい』、『遊歩道路の中央に在るロータリーは久しく空地のままになっていたので、県・市の了解を得て其処へ、茅ヶ崎の古名「砥上ヶ原」を詠った西行法師の歌碑を、わが郷土会の奔走で建設さるることになった』、「同人小雨叟、病体ながら久しく空席だった市立図書館の名誉館長になった。郷土会と相まって市の文化面に多少の貢献を捧げたいと念願する」等々。

最終号の改巻四号まで「編集後記」があるが、この一号の「編集を了えて」共々筆者は斎藤昌三と思われる。

郷土茅ヶ崎―改巻第二号―

昭和三五年三月発行　発行所茅ヶ崎市社会教育課（内）　茅ヶ崎郷土会　手書き文字の謄写版印刷

堤貝塚の調査　岡本　勇
茅ヶ崎口碑伝説抄　水越　健　遺稿①
懐嶋と鶴嶺八幡　山口金次
茅ヶ崎の古文献抄　斎藤昌三②
小出村の沿革　塩川健寿③
茅ヶ崎村小和田（ママ）の訴訟（写）（大八木家）
材木吟味ニ付連判帳（藤間家）
九ヶ村連判村方江申渡判取帳（藤間家）
玉雄山宝泉寺について　山口金次
九代目市川団十郎別荘について　山口金次
萩園八景　鈴木松風郎
茅ヶ崎郷土年表④

編集後記⑤

①「寒川神社浜降祭の縁起」「痩地蔵」を収める。

②「曽我物語（巻第十）」「改元紀行（蜀山人）」「海道記（源光行）」「東行筆記（湯浅常山）」「中空の日記（香川景樹）」「あづま路の記（貝原益軒）」「東海道ゑきろのすゞ（出雲寺和泉掾）」「三浦紀行（一鶴堂白英）」「甲申旅日記（小笠原長保）」「伊豆国懐紀行（箕川翁）」から茅ヶ崎関係を収める。本誌―研究資料―一、三集に続くもの。

③掲載稿の副題は「学校の部続き―小出小学校沿革誌より」。本誌―改巻第一号に続くもの。

④本誌―研究資料第五集の年表（未定稿）の補遺。

⑤「昨年末、茅ヶ崎文化人クラブが結成されこの方は流石に文化人らしく月月の例会もテキパキと進展している。」『長い懸案だった文化人「獨歩追悼碑」は機熟して、中海岸レ

ストハウス前に予定され、五月中には完成のみこみ』等々。

郷土茅ヶ崎―改巻第三号―

昭和三五年一二月一日発行　編集発行　茅ヶ崎市社会教育課（内）発行茅ヶ崎郷土会　手書き文字の謄写版印刷

目次

佐々木の墓碑を青ヶ島に訪ねる　宮川勇吉①
「大武鑑」の佐々木家系譜　斎藤昌三
佐々木菊次郎に就いて②
青ヶ島概要（国際事報）③
二階堂十人墓　沼田頼輔④
鎌倉古道と茅ヶ崎の板碑　山口金次
鶴嶺八幡・佐塚明神両社縁起　山口金次
萩園村遠山領民門訴顛末　鈴木松風郎
独歩文学碑成る　斎藤昌三⑤
香川出土の蔵骨器　北野義夫⑥
郷土のぼんうた⑦
郷土会総会報告⑧
編集後記　編集部⑨

① 佐々木卯之助の墓石が茅ヶ崎にもたらされた様子を詳述する。
②署名がないが、斎藤昌三筆と思われる。
③掲載稿前書きに「国際事報から以下関係記事を抜粋した」とある。斎藤昌三筆と思われる。
④掲載稿末尾に「大正十五年八月号　鎌倉（第一巻、第五号より）」とある。
⑤関東大震災後茅ヶ崎に移住した筆者が、長年奔走した独歩碑建設の経過を、昭和三五年六月に除幕式を迎えたことを契機に記す。文中に茅ヶ崎文化人クラブは旧ペンクラブを改組して同年一月に結成とある。本誌前号の編集後記中の記述と考え合わせると、同会は三四年末～翌年一月に結成されたようだ。
⑥香川の三橋家裏山出土の蔵骨器四件を、本誌改巻第一号に続き資料報告。
⑦市内に伝わる盆踊り歌ではないようだ。埋め草としての挿入か。
⑧会則、役員、収支の記載がある。また、数年来要望してきた市文化財保護条例が前の年度に制定され、五人の文化財保護委員が選任され、全員が会員であるとのことなど。筆者は三沢善生（善右ヱ門）。
⑨「郷土会の仕事はグングン発展した。その中でも特記すべきものは、大正以来の懸案、独歩文学碑の竣工、文化財保護条例の決定、伊豆七島中の青ヶ島の調査、文化祭の行事に市内重要文化財展覧会等…」「同人斎藤は…市教育委員会から文化表彰、県と神奈川新聞から県の文化賞を贈られた」「浜降祭の保存会が計画されているが、是非結成されたい」「茅ヶ崎の名勝スタンプ、独歩碑に遠景のえぼし岩を配置した新スタンプが、三十五年十二月十五日から茅ヶ崎局でおされる」等々。

郷土茅ヶ崎―改巻第四号―

昭和三六年九月二〇日発行　編集発行茅ヶ崎市社会教育課（内）茅ヶ崎郷土会　手書き文字の謄写版印刷

目次

郷土の体系―茅ヶ崎文華の一面―　（鶴嶺八幡の発祥・源頼朝の落馬死・島津忠久の真相）　斎藤昌三①
茅ヶ崎郷土文学について　山口金次②
茅ヶ崎村訴訟文（古文書）③
小和田村訴訟文（古文書）④
相模拾遺風土記抄　（堀江伊織）ママ⑤
近況雑録（後記）⑥

① 萩園の旧家和田家所蔵の文献（両社鎮守記録・両社大鐘銘その他・両社現在境内図説・竜（ママ）前院縁起考証之控・竜前院追捕・相模高座郡之内御朱印地之帳）を元にしたとして、浜之郷村、鶴嶺八幡社、龍前院などの部分を抜き書きしてある。興味を引く内容だが、引用元の文献についてもっと調べる必要があると思われる。

②大山道沿いの歌人、俳人の作品に触れてある。

③④小和田村と茅ヶ崎村の境論文書。「少雨」筆の補注があるので、斎藤昌三の仕事と分かる。

⑤享保年間の古文書を、大正四年に堀江氏が校訂し同志に配ったものから、郷土に関係ある部分を抜いたと少雨叟の補注がある。

⑥「編集後記」に「本誌の発行はカンマン（緩慢）だが、同人の活動は頗る多面端に発展しており、大半は老人ながら、いづ（ママ）れも当るべからざる活動をしている」とある。今の茅ヶ崎郷土会も年々高齢化が進むが、五六年前の郷土会も、活躍していたのは高齢者だったようだ。また、浄見寺のオハツキイチョウ（昭和三六年県指定）、茅ヶ崎海岸浜降祭（最初は同年県指定）、宝生寺の阿弥陀三尊（同三四年国指定）、旧相模川橋脚（大正一五年国指定）を「誇るべき文化財ができた」とする。前三者は茅ヶ崎郷土会の草創期に重なるから、文化財指定に当たって本会の働きかけがあったものと考えられる。

郷土茅ヶ崎―改巻第四巻別冊（ママ）―

奥付を欠く（刊行年月日不明）
仮名垣魯文の作品大要―野崎文藏の業績―

三

通覧してまず思ったことは、本叢書の発行は、今から六〇年も前の茅ヶ崎郷土会の仕事ながら、大変質の高い仕事だったということだった。それは編集方針を茅ヶ崎の歴史史料と論考に絞ったことに依ると思われる。もちろん文章によってはもう通用しないものもあるが、それにしても良く集めたものだと感心する。今は、同じ計画を立てたとしてもできないことだろう。会員各自の力もあったことだろうが、何より編集者の力量に感心するのである。

とすると、この叢書の編集主任はいったい誰だったのかが問題となる。私は、それは斎藤昌三翁であると思う。理由は、各集にある編集後記が、文章の癖や内容から翁であると思われることと、最もたくさん寄稿しているのも翁であるからである。

二集を初号としているのは何故かという問題もある。それを解くヒントは二集の「後記」中の次の文章、「（昭和三二年）三月六日の郷土会で、兎に角在る資料から漸次会報を出してゆこうと決定したので云々」にあるように思える。続け

て「近い将来の市史にまで発展させたいと祈願している」とし、第一部総記から、二部史料、三部伝説口碑・考古、四部地名・方言・民謡・紀行・文芸・文献・雑録、五部年表までの全体構想を掲げている。しかし二集では構想を述べるだけで、この部建てを適用するのは同年六月に出した一集、引き続き一〇月に出した三集以降なのである。準備不足のままにまず刊行する号を二集とし、遅れてできた完成版の初号を一集としたのかと思うが、ウーンこの考えは少し弱いか、まだほかの理由があるのかもしれない。

二集に掲載する「発刊の言葉」中の「将来の茅ヶ崎市史編纂のために資料集を刊行する」という決意も興味深い。ここに、この叢書に「研究資料」と副題を付けた理由を見る。

将来の茅ヶ崎市史を目指すこの計画は、当時の教育委員会社会教育課と意思を通じ合った上で立てたもののように思われる。発行所を同課内郷土会としているからである。印刷費は郷土会で持っていたらしいことは他の部分からうかがえる。当時の教育委員会は歴史に関する専門的な部分を郷土会に託していたのだろう。このことはまた、昭和三五年一二月発行の改巻三号の郷土会総会報告にある、「本市にも文化財保護条例が施行され、文化財保護委員全員は郷土会会員である」という記事からも読み取ることができる。

昭和三三年六月刊行の第五集に未定稿としながらも「郷土史年表」が掲げられているのは特筆すべきである。収録件数は多いとは言えないが、茅ヶ崎歴史年表の嚆矢とすべきだろう。これも市史を目指したエネルギーの結実だったのだろう。有名な改造社版『現代日本文学大年表』を編纂した斎藤翁だからできた仕事だと思う。

「改巻」を副題とする七集以降の刊行は、六集までで一応の目的を終えたが、続刊を望む声にひかれて再出発した経緯が改巻一号の「編集を了えて」に述べられている。また、改巻各号の編集後記には、独歩碑建設など、郷土会の文化事業を紹介してあるが、その多くは斎藤翁個人の願いが完成したものだったように思われる。

茅ヶ崎郷土会は何時結成されたのだろうか。改巻二号（三五年三月刊）の編集後記に「昨年来、茅ヶ崎文化人クラブが結成され」とある。今年（平成二九年）一一月に行われた茅ヶ崎文化人クラブの文化祭展示に掲げられていた斎藤昌三年譜に「昭和二十八年（一九五三）茅ヶ崎郷土会初代会長　／昭和三十二年（一九五七）『郷土茅ヶ崎』創刊」とあった。郷土茅ヶ崎創刊が三二年であることはうなずけるが、「二八年初代会長」の一文は何に基づくものだろうか。展示では解説してなかった。茅ヶ崎文化人クラブと茅ヶ崎郷土会は兄弟のような関係にあると私は思っている。「二八年初代会長」について、何かをご存知の方がおられれば、ぜひとも教えを乞いたいと願っている。

最後にもう一つ、この叢書の表紙には三種類の墨絵が用いてある。「郷土茅ヶ崎」の書き文字とこれらの絵も翁の筆になるものではなかろうか。

（平成二九年一二月二三日）

茅ヶ崎郷土会の史跡・文化財めぐり報告

第二八二回史跡めぐり

鎌倉市　日蓮の足跡

山本俊雄

平成二九年九月二五日（月）　参加者　一七名

今年度の史跡めぐりのテーマ「**鎌倉と小田原**」の第三回目です。

今回は日蓮上人関連なので、小町大路の妙隆寺、辻説法跡から大町に向かう、鎌倉時代で言えば武家と商家混在の町から商人町に至るコースを考え、下見も行ったのですが、源さんのアドバイスで、最後は龍口寺にして、是非江の島で食事をしようとの意見と、メインの一つ安国論寺が月曜休みで拝観出来ないと分かったことから、材木座の長勝寺まで足を伸ばすことにしました。ただ、最後が江ノ電利用と少し遠くなったので、最初の長勝寺までをバスで時間短縮し、そこから歩いて戻るコースに変更しました。コースは①**長勝寺**　②**妙法寺**　③**本興寺**　④**常栄寺（ぼたもち寺）**　⑤**妙本寺**　⑥**本覚寺**　⑦**日蓮上人辻説法跡**　⑧**妙隆寺**　⑨**龍口寺**で、⑧と⑨の間は江ノ電で行く事になりました。

先ず、①**長勝寺**、山号：石井山（せきせいざん）石井藤五郎長勝が伊豆に流されていた日蓮のため、鎌倉に用意した庵が寺の起源と言われています。

境内には辻説法姿の日蓮上人像（高村光雲作）、その後ろに帝釈堂や四天王像があり、帝釈天ゆかりの霊場とわかります。門柱ほかいたる所に四角い渦巻き状の帝釈天の紋が見られます。千葉県中山（市川市）の法華経寺で、毎年十一月より、百日間の荒行を終えた僧が、長勝寺で二月十一日に水行を行う「大國禱会成満祭（だいこくとうえじょうまんさい）」は鎌倉の冬の見ものです。境内を見学していると、どういう関係か分からないのですが吉良上野介の層塔を見つけました。

境内を出て名越切通に向かう途中には、鎌倉五名水の一つ、**日蓮乞水（こいみず）**があります。日蓮が最初に鎌倉に入った時、水を求めて地面に杖を突き刺すと清水が湧き出たと言われます。ただ、先を急ぐのと、そばにある橋のたもとに日蓮水の石碑があったので、「**乞水**」の現地に行かないで済ませてしまいました。　次にバス通りを横切り妙法寺に向かう途中、**安国論寺**の門が休みなのに開いていたので、案内文（縁起）を読みながら、みんなでしばらく中を覗きました（決して境内に入ったわけではありません）。

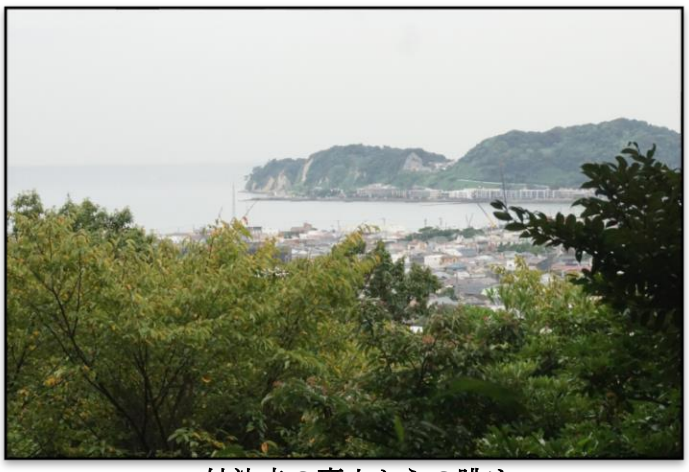
ここで**日蓮の四大法難**について書きますと、日蓮が建長五年（一二五三）鎌倉に入り松葉ケ谷に草庵を開

長勝寺の境内（日蓮像・四天王像・帝釈堂）

き、小町大路で辻説法をしていた。当時、天変地異や流行っていた疫病は、念仏など邪教が興隆するからで、正しい教えが広まらず、内乱や異国からの侵略を招く所以であると予言し、文応元年（一二六〇）三十九歳で、時の最高権力者北条時頼に『**立正安国論**』を上奏した。その一ヶ月後に念仏信者等に草庵を襲われた。これが、一回目の**松葉ケ谷法難**で、先の長勝寺や安国論寺、そしてこれから行く妙法寺が、法難比定の草庵である、と言われています。

他の三つの法難は、一年後の**伊豆**、その三年後の**小松原**、さらにその七年後の**龍口**、または同年の**佐渡**ですが、資料によって、佐渡を入れる場合は松葉ケ谷法難が入っていないようです。ちなみに日蓮が被る綿帽子は、小松原法難の際に洞窟にひそんでいた時、世話をした老婆が、被っていた綿帽子を掛けてくれた事にちなむと言われています。

②**妙法寺**では、受付で線香を頂き、先ず細川家寄進の本堂に参り、各々が線香を手向けた後、加藤清正を祀った大覚殿を右手に見て、仁王門に進むと、その先の石段は苔に覆われていました（**苔寺**の由来）。苔の保護のために右側にある急な石段を登ると釈迦堂跡、さらに登ると水戸家寄進の法華堂、さらに登った右手山頂には中興、**日叡**の父**護良親王の墓**、左手山頂には自身と母の墓があります。下見では、平野さんと片田さんが、右手山頂まで登りお墓にお参りした。素晴らしい景色だった、との話。この日皆さんは法華堂止まりで、誰も素晴らしい景色を見に行かなかったのでした。


妙法寺の裏山からの眺め

次にバス通り南の脇道を直進し、大町四つ角の南側に出ると、すぐ横が③**本興寺**、ここにも「**日蓮辻説法の碑**」があります。見学をした後、すぐ前の**辻薬師堂**をみる。ここにあった**薬師三尊像**と**十二神将像**（**国重文**）は、現在、鎌倉国宝館に寄託展示されていますので、代わりの仏像が置かれています。お堂は暗く中が良く見えません。お賽銭を入れると、何分間か灯りがつく仕組みで、なかなか面白く、何人も見ていました。

次に大町四つ角の手前に、赤い橋があります。逆川（さかさがわ）にかかる**魚町橋**（**いおまちばし**）でここが商人町だったことが分かります。近くに川が逆流して見える逆川橋がありますが話すのを忘れてしまいました。

四つ角を過ぎて右に入ると**八雲神社**、その北側に④**常栄寺**（**ぼたもち寺**）があります。日蓮が龍ノ口法難で、引き回されている時に、桟敷の媼がぼた餅をくれて助かったことから「**頸（くび）つぎのぼた餅**」、（「**御首継ぎにゴマの餅**」ともいう）で有名です。

少し北に行くと　⑤**妙本寺**に出ます。比企能員一族の屋敷があった比企谷（ひきがやつ）です。ここで二代将軍頼家の長男、一幡と母の若狭局が北条氏に滅ぼされています。生き残った末子、能本（よしもと）が日蓮に帰依して建てた**法華**

常栄寺山門

堂がこの寺の前身です。こういう所を見ると、有能でも謀略、暗殺に長けた北条一族のいやらしさが鼻に付きます。

続いてすぐ前の⑥**本覚寺**です。二世住職の日朝が日蓮の骨を分骨したので、「**東身延**」とも呼ばれ、**松平定信**筆の「東身延」の額も残っています。源頼朝以来の**夷堂**があることから今も正月には「**初えびす**」、十日には「**本えびす**」で賑わっています。境内には名刀**工正宗**の墓もあります。

本堂裏手に日蓮上人、日出、日朝の宝篋印塔があります。その前の回廊との間では少し休めそうでしたので、昼も近く急にお腹が空いて、ここで弁当を使えればいいなぁと思ったのは、私だけではなかったようです。

小町大路を北に急いで、⑦**日蓮上人辻説法跡**に着きます。日蓮は初め松葉ケ谷に草庵を構え、小町大路で十五年間活動したようです。ここの石碑は戦前に戦争批判と死刑廃止、八紘一宇を唱えた宗教学者の**田中智学**が整備したとのことです。

続いてすぐ北側の⑧**妙隆寺**、ここは頼朝の重臣、**千葉介常胤**の屋敷跡で子孫の**胤貞**が氏寺である中山法華経寺の日英を迎え建立したと伝わります。領地の千葉から迎えた訳ですね。二世**日親**は、室町幕府六代将軍足利義教の怒りを買い、拷問を受けるも耐えたことから「**鍋かむり日親**」と呼ばれます。境内には日親水行の池や、鎌倉江の島七福神の寿老人が、お供の鹿と共に安置されています。また、広島で被爆死した「新劇の団十郎」こと丸山定夫の石碑もあります。これで鎌倉分は終わり、江ノ電で江の島に向かいますが、ちょうど昼時でもあり、ここで一旦解散とし、希望者だけで行く事になりました。

江の島では、先ず⑨**龍口寺**にお参りし、本堂に参拝の後、五重塔も近くで仰ぎ見ました。堂塔はほとんど江戸時代のものですが、山門、本堂などに多くの装飾彫刻が施されています。また、後で調べたところ、五重塔には宗祖日蓮の一代記が彫刻されているとのことでした。準備不足で、折角ご案内をしながらお話し出来ずに残念でした。

龍口寺に入る前、私だけでなく皆さんもお腹を空かせていたようで、とても江の島まで歩く気力が無くなり、見かけたバス通りの魚屋さんで昼食もできるとのこと（源さんの話）で、いち早く源さんが予約を済ませてくれていました。助かりました。最後は楽しい昼食で終わることができ、無事に帰着しました。

風　自由投稿欄

湘南のコケコッコー

中島幸子

隣で飼っているペットが気持ちよさそうに張り上げていた。

コケコッコー

よくあった話だが、隣の娘さんが小学生だったころ、平塚の七夕祭りの露店のおじさんにこっそり耳打ちされた。

「すぐに卵産むからね」

この言葉が効いてしまい、両親の反対をよそに飼うことにしてしまった。ヒヨコの飼い主は、大学を卒業して今はもう社会人になっている。

娘さんの世話が良かったのか、もともと生まれが良いのか、卵は、待っていても生まれるどころか、界隈にコケコッコーを聞かせていた。

真夏、家じゅうの窓を開け放ち風通しを愉しんでいたら、東京の友達から電話がきた。受話器をにぎったとたん、ちょうどペット君の雄叫びタイムと重なってしまい、コケコッコーが不躾にも耳に入ってきて止まらない。ワイヤレスの子機にすべきだった。窓も閉めれば良かったかもしれない。こちらは電話の声がよく聞こえないのだから、返事もちぐはぐだったろう。

「ねえお宅、にわとり飼っているの？　そこ、湘南なのよねえ」

隣で飼っているなんて言い訳は恥ずかしい。遠距離からの昔話も早々に切る羽目になった。

数日後、サーフボードを抱えた若者が二人、自転車に乗ってやってきた。この日はとびっきり天気もかったが、それにも増して美声が冴えていた。すると一人の若者が怒ったように

「よしてくれよなコケコッコーなんて、湘南なんだぜここは」

二人の後ろ姿を眺めながら吹き出しそうになった。「ゴモットモ！」と怒鳴りたかった。

湘南に、若者のサーフボードはお似合いらしい。国道一三四号の暴走族ラリーもきっとお似合いだと思っているんだ。待てよ、平塚の七夕祭りだって有名で、もう市民権を得ているはずなのにコケコッコーはだめらしい。

ショウナンのイメージは何といってもサザンオールスターズ。海辺で音楽のライブを大音響でやっていたではないか。

ペット君、目をパチパチさせて、

「桑田さん、コケコッコーのリズムで、茅ヶ崎が爆発的に売れる歌作ってくださいませんかー」。

茅ヶ崎郷土会の活動報告

中島中学校の「地域交流会」に参加して

杉山 全

平成二九年九月一六日(土)。雨天の中、恒例行事の地域の諸団体との連携による中島中学校主催の「地域交流会」が盛大に行われた。茅ヶ崎郷土会も「茅ヶ崎かるた」の原画展示と昔のあそび（主に独楽こま回し）をテーマとして参加した。

前日の一五日(金)は午後三時から搬入と展示の準備をした。会場には、中島中学校の地域交流会実行委員の女生徒二名が手伝いに来てくれた。展示が終了した後に、お二人が黒板に絵を描いてくれた。「茅ヶ崎かるた」の絵札の一つでもある南郷力丸の絵と、独楽の絵である。この見事な絵で、会場の雰囲気は華やいだものになった。

当日は、郷土会担当の先生が熱心に生徒や一般来場者に声を掛けてくれた。お陰さまで、たくさんの方々の来場がありにぎやかであった。

かるた会には多くの男子生徒の参加があり、大変な盛り上がりであった。勝った人にはトップ賞を用意したので、一層熱が入ったようだ。私たちも一緒になって楽しい時間を過ごした。

独楽回しも大人気。最初はおぼつかない手つきであったが、何回かの挑戦で次第に上手に回せるようになり、参加者の得意げな顔を多く見ることができた。

今回は、特別講師として、地元柳島に「アトリエ響（きょう）」という工房を持ち、創作独楽や和凧（わだこ）の制作をしている永野良雄さんが、独楽作りの実技を披露してくれた。最後に独楽に色づけをするのは子供たち、その真剣な顔つきが印象的であった。

中島中学校の地域交流会も諸般の事情により、今年度をもって終わることになりました。中学校としてはこれからもそれぞれの諸団体との交流は継続するとのことです。茅ヶ崎郷土会も機会があれば連携を続けていきたいと思っています。

（茅ヶ崎郷土会からの参加者：青木昭三、羽切信夫、前田照勝、杉山 全）

写真展「相模のもののふたちを訪ねて」

編集子

一〇月二日（月）から同月六日（金）まで、市役所新庁舎一階のふれあいプラザを会場に、茅ヶ崎市文化祭に参加して標記の写真展を行った。二八年度中の史跡・文化財巡りで訪れた鎌倉武士、三浦一族・和田義盛・梶原景時・土肥実平・岡崎義実 与一義忠・土屋宗遠のゆかりの地と、県内の流鏑馬を写真パネルで紹介し、併せて「武士の発生」解説コーナーを設けたもの。また、七堂伽藍跡建碑六〇周年に関し、遺跡写真を社会教育課の協力を得て展示した。ふれあいプラザでの開催は、例年の市民文化会館が改装のために使えなかったからだが、見てくださった人の数は圧倒的だった。アンケートは六一枚回収できて、「とても良かった」三九、「良かった」二〇、「普通」二人の回答があった。

寄せられた感想文の中から。

○企画が大変良かった。写真をはじめ資料もカラーのものが多く美しいと思った。展示を作られた方々の努力と熱意が伝わってきた催しだった。（市内　七〇歳代）
○大変充実した内容で、一回では見終えることができなかった。もう一度ゆっくり見させて頂きたいと思います。友人、知人にも宣伝したいと思います。一週間の展示で終わらせることは大変もったいないと思います。（市内　七〇歳代）
○茅ヶ崎に嫁入りし五〇年近くになりますが、暮らしに追われただ住むだけでしたが、歴史を深く掘り下げて解りやすい展示をありがとうございました。（市内　七〇歳代）
○北陵高校付近の出土は新聞などで知っていますが、実際に見るのは初めてです。もっと詳細に出土物などがあれば見てみたいです。（平塚市　六〇歳代）

第四十五回　茅ヶ崎市郷土芸能大会

編集子

市民文化会館が使えないために、今年は市の総合体育館で行われた。日取りは一一月二三日（木・祝日）、一二時開場、一三時開演。演目は茅ヶ崎高等学校文楽部の「寿式二人三番叟」、民話の会「茅ヶ崎の民話　車地蔵」、レクリエーション協会「茅ヶ崎ふるさと音頭」、柳島エンコロ節保存会「柳島御座敷甚句」、円蔵祭囃子保存会・岡崎部会「円蔵ばか踊り」、芹沢焼米搗唄保存会「焼米搗唄」、上赤羽根太鼓保存会「上赤羽根甚句」、南湖餅搗唄保存会「餅搗唄」、南湖麦打唄保存会「麦打唄」、上赤羽根太鼓保存会「祭囃子」、芹沢焼米搗唄保存会「ササラ盆唄」、円蔵祭囃子保存会「円蔵祭囃子」、中島中学校一年生・柳島大漁船上げ唄好友会「大漁船上げ唄」、中島中学校二年生・柳島エンコロ節保存会「エンコロ節」の一四種目。暖房の無い広い体育室の半分を使い、客席を二階観覧席に設けて見下ろすという勝手違った会場だったが、いずれの団体も例年に変わらない熱演を披露していた。

郷土ちがさき　一四〇号正誤表

☆三頁一二行唖然坊→唖蝉坊☆一〇頁下段一三行三重県宇陀市→奈良県☆一一頁下段二二・二六行鈴木光重→佐藤光重

写真展パンフレット「相模のもののふたちを訪ねて」正誤表

☆一〇頁二―一〇・一三奈須の与一→那須の与一☆一一頁3コーナー一四行義意（よしもと）→（よしおき）☆一二頁三―〇一岡村→村岡☆一六頁三―二二清雲寺寺→清雲寺☆一七頁四―〇一義盛の弟義澄→義宗の弟義澄☆一八頁四―〇→四―〇七☆二一頁四―一六・一七義意（よしもと）→（よしおき）☆二四頁五―一一餓鬼道・餓鬼道→地獄道・餓鬼道☆二六頁六―〇四実平の女は→宗平の女は☆三一頁七―〇二天王社（二カ所）→山王社☆三二頁七―〇六一七年刊→年間☆三九頁九―〇三　生神社→室生神社

【編集後記】　一〇月に行った市文化祭参加の写真展「相模の…」ではアンケートをお願いしてみた。郷土会では初めての試みではなかったろうか。「出来普通」二のほか全部プラス評価で一同胸をなで下ろしたものだった。会員は八〇人を超えているが高齢化が進む茅ヶ崎郷土会、行事に参加できない方も増えている。今は別世界にいる諸先輩からの声がする。「こういう時こそより面白く、より充実した活動を、だよ」の。ご意見などは平野（０９０―８１７３―８８４５）まで。

平成29年度　茅ヶ崎郷土会　年間事業予定

（網掛けは終了した事業）

2017/12/25印刷

		催し物	（公開事業①） 市外史跡・文化財めぐり	（公開事業②） 市内23ヶ村調査勉強会 【会場　福祉会館及び現地】	会場・収容人数	（公開事業③） 郷土歴史民俗勉強会 【会場　福祉会館】	会場・収容人数	郷土ちがさき　発行
平成29年	4月	大岡越前祭「越前守遺跡写真展」 ・総合体育館22日（土）・23日（日） ・民俗資料館旧和田家22日（土）	—	11日（第2火）13:30～　準備会	集会室2（36人）	—	—	—
				25日（第4火）13：30～　準備会	集会室2（36人）	—	—	
	5月	—	22日（第4月）280回 鎌倉市　北鎌倉の五山文化	2日（第1火）13：30～　室内（中島村-1）	集会室2（36人）	—	—	1日発行 （139号）
				16日（第3火）13：30～　室内（中島村-2）	集会室6（24人）	16日（第3火）10:00～ 平野　市内の神社　伊勢信仰-2	集会室6（24人）	
	6月	—	26日（第4月）281回 小田原市　小田原城とその周辺	6日（第1火）13：30～　室内（中島村-3）	集会室6（24人）	—	—	—
				20日（第3火）13：30～　室内（中島村-4）	集会室6（24人）	20日（第3火）10：00～ 岡崎　浜降祭のはなし	集会室2（36人）	
	7月	—	—	4日（第1火）終日　現地調査（中島村-5）	—	—	—	—
				11日（第2火）13：30～　サポートセンター（中島村-6）				
				18日（第3火）終日　現地調査（中島村-7）	—	—	—	
	8月	—	—	1日（第1火）13：30～　室内（中島村-8）	集会室6（24人）	—	—	—
				15日（第3火）13：30～　室内（中島村-9）	集会室2（36人）	15日（第3火）10：00～ 源　相模のもののふたち	集会室2（36人）	
	9月	中島中学校の地域交流会に協力 ・16日（土）	25日（第4月）282回 鎌倉市　日蓮の足跡	5日（第1火）13：30～　室内（中島・下寺尾）	集会室2（36人）	—	—	1日発行 （140号）
				19日（第3火）13：30～　室内（中島・下寺尾） 【会場】市民活動サポートセンター	—サポセン—	19日（第3火）10：00～【会場】市役所分庁舎5階B会議室 丸ごとの会　加藤幹雄さん（相模と渡来人）		
	10月	市民文化祭「相模のもののふ展」 ・2日（月）～6日（金） ・市民ふれあいプラザ（市役所内）	—	~~3日（第1火）終日　現地調査~~【中止】	—	—	—	—
				17日（第3火）終日　現地調査（下寺尾村）	—	—	—	
	11月	郷土芸能大会 ・23日（木　祝日） ・市総合体育館	27日（第4月）283回 箱根町　阿弥陀寺他	7日（第1火）13：30～　室内（中島・下寺尾）	集会室6（24人）	—	—	—
				21日（第2火）13：30～　室内（中島・下寺尾）	集会室6（24人）	21日（第3火）10：00～ 平野　市内の神社　伊勢信仰-3	集会室6（24人）	
	12月	—	25日（第4月）284回 鎌倉市　廃寺跡巡り	5日（第1火）10：00～　現地調査（中島）	~~？集会室6（24人）~~	—	—	—
				19日（第3火）13：30～　室内（中島・下寺尾）	集会室6（24人）	19日（第3火）10：00～【会場】市役所分庁舎5階B会議室 羽切信夫（茅ヶ崎の医療と茅ヶ崎徳洲会病院の開設）		
平成30年	1月	—	—	9日（第2火）終日　現地調査（中島）	—	—	—	1日発行 （141号）
				16日（第3火）終日　現地調査（下寺尾）	—	—	—	
	2月	サポセンワイワイまつり ・2月25日（日）	11日（第2日）285回 雨のときは18日（日） 小田原市　下曽我の流鏑馬	6日（第1火）13：30～　室内（□□村-1）	（　　）	—	—	—
				20日（第1火）13：30～　室内（□□村-2）	（　　）	20日（第3火）10：00～ 平野　市内の神社　伊勢信仰-4	（　　）	
	3月	—	26日（第4月）286回 鎌倉市　太平記を訪ねる	6日（第1火）13：30～　室内（□□村-3）	（　　）	—	—	—
				20日（第3火）13：30～　室内（□□村-4）	（　　）	20日（第3火）10：00～ 原　温泉の話	（　　）	

★実施日・場所・テーマなどは変わることがあります。お問い合わせは平野文明（090－8173－8845）　源邦章（080－6784－3088）　山本俊雄（090－6174－2806）。
★公開事業②　23ヶ村調査勉強会の対象村・期日は変更することがあります。
★「市外史跡・文化財めぐり」　集合は茅ヶ崎駅改札前午前8時50分。雨天のときは一週間後の同じ曜日・時刻に実施します。その日も荒天の場合は中止です。
★（公開事業①③）は、会員200円、会員外は300円ご負担願います。また②も含め必要経費が生じた場合は会員・会員外を問わず臨時徴収することがあります。
★（公開事業③）は、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会との共催です。
★交通費・食事・傷害等は各自対応してください。